

新型コロナウイルス感染症の拡大防止により総会を「書面議決」に

3つのクラブ新設および役員改選などが承認される

—— 様々な予防措置が必要とされる活動 ——

毎年4月中旬に開催していた総会は、新型コロナウイルス感染症の流行により図書館が休館になったため延期を余儀なくされました。更に6月から図書館が開館したものの、サービスの一部制限により会場の確保が不可能になりました。従って総会に代わって議案の可否を問う「書面議決」方式を採用し、会員の皆様には議案書の送付と表決葉書の返信をお願いしました。

例年通り、活動や決算報告、そして活動方針(案)や予算(案)に加え、今年度は新たに活動を開始するイベントクラブ・昔語りの会・読書クラブの3つのクラブの設置承認や任期2年の役員改選(右の新役員体制参照)などもあり、緊急避難的に全議案の一括採決方式で行いました。

その結果、7月10日の表決締め切り日までに会員の過半数を大きく超え、結果的には役員を含め50名の賛成ですべての議案が可決されました。

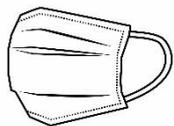
以上の経過を踏まえ7月11日(土)午後6時からのナイトシアター開催から2020年度の活動が開始されました。

【 新役員体制 】

会 長	朝野 熙彦
副 会 長	鶴岡 幸子
会 計	中里 隆二
会 計 監 査	板倉 時雄 加藤まさ江
総 務 委 員 長	中里 隆二
広 報 委 員 長	阿部 京子
ナイトシアターク ラブ	中里 隆二
おはなしくらぶ	岸本 節子
CD・DVD コンサートクラブ	西村 喜久子
多読クラブ	石原 恵美
イベントクラブ (新)	北野 達也
昔語りの会(新)	山浦 敬子
読書クラブ(新)	島崎 陽子

「友の会ウィーク」及び「新春かるた会」 今年度は開催を中止

今後の活動については状況を見ながら進めていかざるを得ませんが、「3密」の回避やソーシャルディスタンスの確保、また会場の入場者の制限などを検討した結果、残念ながら新年11月上旬から開始してきた「葛飾図書館友の会ウィーク」及び新年1月3日(日)に予定していた「新春かるた会」は中止することになりました。



中央図書館でのイベント開催には入場者の制限とマスクの着用や検温、手指の消毒の徹底、更にはイベント参加票提出への協力など、安心・安全対策を取っています。

これまで通りの企画・実行は出来ませんが、できる範囲での活動を続けていきます。

葛飾 友の会 検索

クリックで葛飾図書館友の会HPへ

アドレス <https://katsutomo.jimdo.com/>

コロナ禍の中での友の会活動

葛飾図書館友の会会長 朝野 熙彦

新型コロナの影響は控えめに言ってもコロナ禍、人によってはパンデミックとかクライシスと呼ぶほど日本の社会に大きな変動を及ぼしています。私たち友の会も従来とは異なる対応を余儀なくされています。

第13回総会は例年の形式での総会が実施不可能となったため、書面による議決に切り替えました。「たんしん」で報告の通り、議決時の会員74名の半数を超える50名の賛成を得て議案は可決されました。今回の書面議決は緊急時のやむを得ない対応であって、来年は従来通りの総会が開けることを希望します。

さて善意によるボランティア活動が感染クラスターを発生させることがあってはなりません。図書館への来館者の安心・安全を考慮し、毎年11月に開催してきた「葛飾図書館友の会ウィーク」は残念ながら今年は中止にしました。その代わり11月8日(日)から同22日(日)までの期間、中央図書館の展示コーナーで友の会の活動をポスターや資料などで展示します。各委員会は「非接触型」の情報提供によって仲間を増やす絶好のチャンスであるとお考え下さい。

外部への見学会は訪問先が3密を避けられる広大な施設であれば問題ないと考えられます。また講演会も定員を守れば大丈夫でしょう。

3密とともに日本独自の用語であるソーシャルディスタンスは社会的には離反や疎外を意味するので適訳ではなさそうです。物理的に身体の距離を空ける physical distancing がより英語らしい表現です。そこで友の会会員はフィジカルには離れていようとも、仲間どうしの心の結びつきは失わずに、このコロナ禍の時期を乗り越えていただくことを願います。多読クラブのように Facebook や YouTube を活用して活動を継続している委員会もあります。スマホを使えば ZOOM でミーティングすることも可能です。もちろん電話やはがきのような従来からの通信手段も大切です。「友の会通信」と「たんしん」は従来にも増して重要な役割を担うこととなります。様々なコミュニケーション手段を駆使して友の会のソーシャルな関係性を途切らせないように心がけましょう。

生涯にわたる豊かな学びを支援するという友の会の活動は葛飾区のかつしか教育プランの中でも明記されています。つまり当会は社会的にも意義が認められた団体だといえるでしょう。友の会会員各位には今後とも友の会活動への積極的なご参加をお願いします。

対策をとっての友の会活動をスタート

『陽の当たる場所』からナイトシアター再開 定員は40名に限定 入口で体温測定、手指の消毒などを依頼

新年度初めての友の会活動として、7月11日(土)午後6時から第128回の上映会を開催しました。3月から休止していたナイトシアターでしたが、『陽の当たる場所』上映には開場前から来場者が来られ、根強い映画ファンがいらっしやることがわかります。コロナ禍でのイベント開催のため、マスク着用の徹底や図書館から借用した非接触型検温器による体温測定、手指の消毒やイベント参加票記入の協力など初めての経験で戸惑うシーンも。



通常なら先着100名という会議室1も、定員40名に限定したナイトシアター。ポスターの掲示やチラシの配架も中央図書館に限定。来場者も28名だったためか、かなりの余裕を持った座席の間隔。ただし換気確保のための窓開けや前後の扉の開放などにより明るさと音に神経を使いました。なお8月の『夏をゆく人々』には31名の来場者が、また9月の『巴里のアメリカ人』は入場をお断りするほどの盛況。

本年度上映出来なかった映画は来年度には必ずナイトシアターのラインナップに入れます。

(ナイトシアタークラブ 中里隆二)

多読クラブでは図書館閉館中、いつもの多読講座の代わりにWeb読書会を開催しました。4月から月に1回、合計3回、毎回6名くらいの参加があり、とても盛り上がりました。リモートでの読書会、リモートならではのメリットがたくさんありました。メリットは主に次の3点です。

- 1 場所を選ばない → 会場に行かなくていいから時間の節約、身支度も不要
- 2 参加者それぞれが活発に発言できる → 濃い情報交換ができる
- 3 新しい体験をした → 楽しい！



休館中のイベント中止にめげず、できることをやってみよう！と多読クラブ委員のイッシーくん＆イッシーちゃんのダブルイッシーが試みました。

初めての挑戦だったので、ミーティングアプリがちゃんと作動するか事前に何人かのメンバーで実験ミーティングをしました。初めてだと音声やビデオがなかなかONにならなかつたりして、繋がるまでに時間がかかるんですね。

毎回1時間ほどの読書会でしたが、あっという間に時間が経つという感じ。リモートミーティングのやり方も身に付いたので、今後もいざというときはWeb読書会をいつでも開催できます。というか、いざという時でなくてもこういう形の読書会、すごく楽しいので別の機会にまたやってみたいな、と思っています。

(多読クラブ リーダー 石原 恵美)

読書クラブの第1回読書会開催 様々な感想が噴出？ 白熱した2時間に



8月9日(日) 15時から葛飾区立中央図書館にて第1回読書クラブの読書会を開催しました。

4月開催予定がコロナ禍で延期になり、待望の初回となりました。第1回目、どのような方々が何名ご参加されるか分からず、最悪、自分が2時間もたせなくてはならないかもと意気込んで会場に向かいましたが、杞憂に終わりました。

初回に取り上げた本は三島由紀夫『金閣寺』です。日本文学の第一人者であり世界のミシマとしても名を挙げている作家です。代表作の1冊である『金閣寺』は一部史実に基づいて書かれており、主人公の心理状態を追っていくのに大変興味を注がれる本でもあります。

全くの偶然ではありますが、今年は、1970年11月25日市ヶ谷駐屯地バルコニーで三島由紀夫が自決をしてから没後50年の記念になる年であり、「三島由紀夫 vs 東大全共闘」のドキュメンタリー映画が公開されたりとマスコミをにぎわし、話題には事欠かない時期に遭遇しました。ますます『金閣寺』読書欲を刺激され、様々な方面から三島由紀夫に接する機会となりました。

そんな中での今回の読書会、冒頭から白熱しました。喧々囂々、大変盛り上がりました。アンチ三島論を繰り広げる方がいれば、それに対して三島を擁護する方があり、また自説の三島論を語る方もいらっしゃいました。素直に「何を言いたいのかよく分からない本」のご発言もありました。また、図書館で関連本をお探しになりご紹介された方も数名いらっしゃり、今後の三島読書に楽しみをもたらしてくださいました。様々な経歴をお持ちの方々11名のご参加でした。楽しかった、の言葉で締めくくることができた初回でした。

読書クラブは自由闊達なトークを楽しむサロン風読書会です。お気軽にご参加下さい。次回は10月3日(土) 15時からカズオ・イシグロ著『日の名残り』です。

(読書クラブ リーダー 島崎 陽子)

『仕事は楽しいかね?』 デイル・ドーテン著 野津 智子 訳 (きこ書房)

「明日は今日と違う自分になる」が楽しみに

いきなりですが、「仕事は楽しいですか?」 楽しく仕事をするには、好きなことをするのが一番、とよく耳にします。同様に、まずは最初に目標を持つことが必要というのがあります。でも、実際は、自分は何が好きなのかわからない、どんな目標を立てればいいのかわからない、立ててはみたが達成にはほど遠い、そんな人の方が多いのではないのでしょうか?

著者のデイル・ドーテンはアメリカの起業家、実業家でマクドナルド、3M、P&Gなどの国際的大企業を顧客にもち、ビジネス分野のコラムニストとしても多くの愛読者をもっています。様々な経験、知見に基づいた「成功のための戦略」について教えてくれる本です。

この本を読むと、目標を立てることでかえって取り残され感や物足りなさを感じてしまっている、「目標



の弊害」について知ることができます。さらに、「成功のための戦略」を知ることで毎日の同じことの繰り返しの中に喜びを見つけ、結果として自分の想像以上のところに到達していくことにつながっていきます。ストーリーは実業家の老人

マックスと仕事に希望を見出せないビジネスマンの主人公が、「成功のための戦略」について会話していく形で進んでいきます。マックス流「成功のための戦略」とは何か? マックスがまず初めにいう言葉、それは、「明日は今日と違う自分になる」です。「明日は今日と違う自分になる」これこそが目標だと説きます。ただひたすら良くなろうとすること。毎日変わろうとすれば毎日「試すこと」を続けなければならない、ものすごく大変なことなんだと。

「最初に陸に上がった魚は、長期にわたる目標をもっていたらどうか?」進化の素晴らしいところは、最終的にどこに行き着くか、全くわからないところであり、遊び感覚でいろいろやって成り行きを見守ることの重要性を教えてください。

私はこの本を読んだ後、ある種のプレッシャーから解放されたような気持ちになりました。例えば、今年は10キロ減量する!とか目標を掲げても、実際はその出来なさ加減に自己嫌悪に陥ることでしょう。それより、「明日は今日と違う自分になる」とシンプルに思うことで、結果的に「毎日違うことを試してみる」ようになりました。それも楽しみながら。一年後どんなことが起こっているか、どんな自分になっているか、とても楽しみです。

(多読クラブ リーダー 石原恵美)

☆☆☆☆☆ 「葛飾図書館友の会」で一緒に活動しませんか! ☆☆☆☆☆

『友の会』は多くの会員によって活動しています。図書館を利用されている方、活動趣旨に賛同される方々、是非ご入会いただいて、あなたの図書館に関わるいろいろなアイデアを少しずつ実現してみませんか? 友の会の開催イベント時でも直接の入会受付を行っていますので、是非ご利用ください。年会費は一般会員 1,000円、賛助会員は1口2,000円です。上記の方法が利用できない場合、入会希望者は中央図書館に入会届をご提出の上、年会費を右記の口座に納入してください。図書館での年会費の直接納入はできません。「通信欄」に一般あるいは賛助会員かを明記の上、2020年度年会費とご記入下さい。また1口500円の寄付も大歓迎です。払込手数料は窓口では203円、ATMからでは152円です。恐れ入りますが、ご負担をお願いいたします。入会届はHP (<http://katsutomo.jimdo.com/>)からもダウンロードできます。

ゆうちょ銀行	口座番号	00100-7-392065
	口座名称	葛飾図書館友の会

お問い合わせ先: 中央図書館友の会担当者(濱中さん、吉村さん、川井さん、盛さん) TEL 03-3607-9201

コロナ自粛の今、ライトノベルを読んで、中高生向けの読み物と思われているライトノベルだが、すでに30年もの歴史がある。最初のころの読者であった中高生はもはや中年だ▼WEB発の小説というのも多く、ネットの「小説家になろう」という小説投稿サイトから書籍化されてヒットした作品も多い。ライトノベルの売上は普通の書籍とは桁違いで人気のシリーズだと1800万部発行といわれる▼所謂読書好きの人にはその装丁や挿絵などから敬遠されてしまうが、読み始めてしまうと、はまる▼私はWEBで発表され、最近書籍化された魔女と王子の物語『Unamended』5巻をもう一か月以上読み続けている。コロナ自粛期間に名作といわれる長編小説を読破しようとも思ったがこんな時期だからこそ心躍るライトノベルが楽しい▼ライトノベルの読者が歳をとったように、物語の主人公たちも中高生から社会人や中年のおじさんも登場するようになった▼図書館ではYA(ヤング・アダルト)コーナーに配置されているので、一度手に取ってみてはいかがだろうか。将棋もの『りゅうおうのおしごと!』、司書のお話『本好きの下剋上』、正体はサラリーマンの『幼女戦記』などは読み始めたらずめられませんか。食わず嫌いはもったいない。(阿部編集委員)

色えんぴつ